

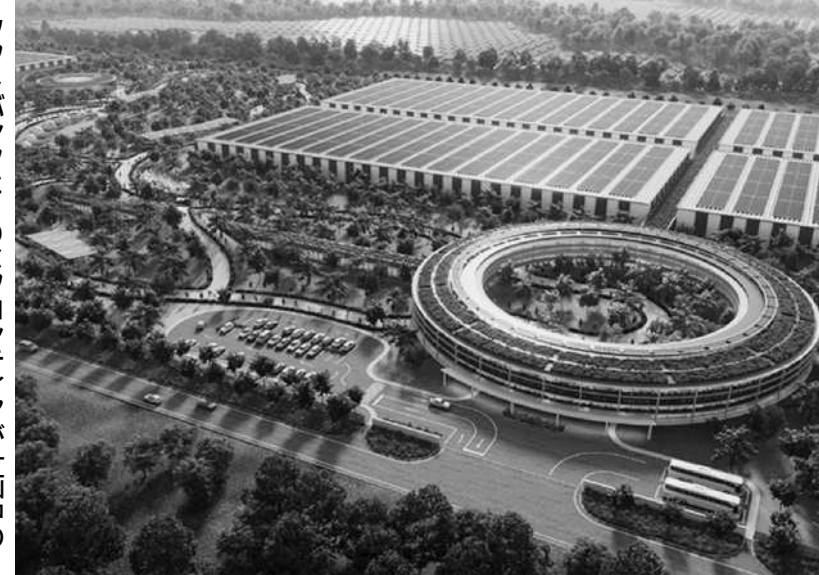
GX・スタートアップらが成長けん引

北海道産業特集

北海道の経済産業構造が大変革のときを迎えている。次世代半導体開発拠点の立地が千歳市に決まって以降、道と札幌市を政府がグリーン・トラストフォーメーション(GX)を活用する「GX金融・資産運用特区」に指定、相次ぐ大規模データセンターの進出、そしてスタートアップの成長も著しい。まさに「日本の未来を描く北のフロンティア」とも呼べる広大な地で、地元企業も大きな一歩を踏み出す。

「GX金融・資産運用特区」指定で大変革 関連企業 道内進出続々と

千歳市に進出を決めたラピダス(東京都千代田区)、小池淳義社長は、2025年秋に完成予定の新工場で世界初の2ナノ(2nm)は10億分の1)の半導体を生産する。ラピダスは、道内進出の第一歩を踏み出す。また、道内進出を決めたラピダス以外にも、道内進出を決めた企業が続々と進出している。GX金融・資産運用特区の指定は、道内進出の大きな追い風となっている。



ラピダスとTOCCフロンティアが計画中のデータセンター(苫小牧市)は道内の再エネを100%利用する。

GXで2024年6月、北海道が国家戦略特区として政府に指定された。元々、再生可能エネルギーのポテンシャルが国内一とされており、洋上風力発電、水素、蓄電池、海底直流送電網など多額のインフラ投資が見込まれる。これらすべてが連携し、半導体関連産業の集積を目指す。北海道バレー(石狩から苫小牧までのエリア)構想の実現も期待されている。次世代半導体、GX、再エネ、データセンターの計画はそれぞれ個別に進んでいるが、実は密接につながっている。北海道の大変革の具体像が徐々にその姿を表している。

多彩な潜在力 世界に発信

北海道では、国家プロジェクトである次世代半導体製造拠点の整備が、2025年春にパイロットライン稼働、27年の量産製造開始に向けて着実に進んでいます。また、我が国唯一の再生可能エネルギーのポテンシャルを生かした大規模AIデータセンターの立地などGX産業の集積が、今まさに進みつつあります。本年6月には北海道の多彩な潜在力を世界に発信し、国内外から新たな産業や投資人を呼び込むとともに、地域の強みや資源を最大限生かして、地域産業の裾野を拡大し、北海道の力が日本そして世界を変えていくように、挑戦を続けてまいります。



北海道知事 鈴木直道氏

北海道知事 鈴木直道氏は、北海道の多彩な潜在力を世界に発信し、国内外から新たな産業や投資人を呼び込むとともに、地域の強みや資源を最大限生かして、地域産業の裾野を拡大し、北海道の力が日本そして世界を変えていくように、挑戦を続けてまいります。

エア・ウォーター北海道 オープンイノベーション推進施設 年内開業

「エア・ウォーターの森」開業が間近に迫っている。エア・ウォーター北海道(札幌市中央区、元元達社社長)が道内の地域社会課題の解決につながる新事業の創出と研究開発、情報発信を目指し、同中央区内のJR桑園駅近くで建設中だ。建物は地上4階建てで延べ床面積8444平方メートル。ウエルネス、オープンイノベーション、オフィスの各フロアを設定し、同社オフィスのほか大学の研究機関、スタートアップ企業なども入居する。道産木材をふんだんに使った木造建築ならではの温かみがある。「一言でいえばオープンイノベーション推進施設。しかし、弊社は活動するのには意味がない。当社の外の方と一緒に事業を議論し、プロジェクトが進められるような拠点」と元元達社長は話す。「いつでもこの場所、ここで人が交流し、ここに来れば大丈夫」と話している。会話を促す空間に開放感あふれるスペースづくりを強調。12月中旬までのオープン予定している。



道産木材の利用も特徴の一つ。エア・ウォーターの森内観(予定)

北海道ガス 再生可能エネ地産地消 取り組み加速

北海道ガスが再生可能エネルギーの活用に向けた取り組みを道内で加速している。再エネの地産地消を目的に、浜中町では家畜ふん尿を原料にバイオメタンを製造する計画を進めるほか、苫小牧では風力発電による電力を調達し、市内の公共施設へ供給している。浜中町での計画は地元自治体や農業協同組合、商船三井、タカナシ乳業など6者が連携する。酪農業が中心の同町で牛ふん尿のふん尿と有機物質からバイオメタンを回収。道内の工場や港湾に寄港する船舶のエネルギー源の一部、または全てを利用する場合の事業性評価を行う。一方、苫小牧とは連携協定を締結。苫小牧太陽ヶ丘風力発電所からの電力を「EIP(フリードインプレミアム)再生エネ市場価格に一定のプレミアムを乗せる」制度を通じて北海道ガスが供給。同町の公共施設からの二酸化炭素排出量を従来比55%削減できることを見込む。これによりエネルギー地産地消モデルの拡充を牽引する。



再エネの地産地消モデルを拡大する北海道ガスの本社(札幌市東区)

磨かれた技術力と進取のビジネスモデルで道内経済 活性化

カナモト

建機レンタルで成長 来月設立60年

1964年(昭39)、北海道室蘭市で創業したカナモトは当初、造船向け資材販売などで事業をスタート。数年のうちに建設機械の貸し出しが増え始めたという。現在の主力事業・建機レンタルの原点はそこにある。以降も建機レンタルは成長し、同時に拠点も苫小牧に設けるなどネットワークを広げ、70年に東

事業拡大の一つではあったものの、官依存からの脱却を図る重要な戦略でもあった。北海道はこれまでもなく戦後から公共事業を軸とする官依存の体質が強く、これは今でも続いている。01年に株式を公開。96年には本社を札幌に移転した。筋肉質で強い経営体質を志向し、今では北海道有数の東証プライム市場の上場企業となった。今年10月には節目となる設立60年を迎える。

1964年の創業当時の店舗

内池建設

「戦略倉庫」ブランド 浸透進む

内池建設(北海道室蘭市、内池秀敏社長)では、自社の看板ブランド「戦略倉庫」が関東や東北で好調に推移しており、道内でもラピダス進出に伴う倉庫兼事務所2件の受注を獲得した。内池社長は「2030年度決算で目標としている売上高100億円に近づいている」と話す。戦略倉庫は建材や工法などを標準化し、コスト削減や工期短縮を図る。さらに次世代半導体工場進出にむけて苫小牧、苫小牧高地域でも大型倉庫を受注。「戦略倉庫」ブランドの浸透が進む。

福島県内に完成した戦略倉庫ブランドの建屋

電制コムテック

装着型の高照度光照射装置 需要拡大

電制コムテック(北海道江別市、田上寛社長)が開発したウェアラブル型の高照度光照射装置「ルーチエグラス」の需要が拡大している。キリンビールでは今年7月、神戸工場(神戸市北区)と岡山工場(岡山市東区)でこれを導入。昼夜3交代で働く従業員の不眠や勤務中の眠気などを軽減する課題を解決するが目的で、睡眠とパフォーマンスの関係などについて学術セミナーも実施したという。

模擬太陽光を浴びることで睡眠リズムを改善するルーチエグラス(同社ウェブサイトから)

アミノアップ

シイタケ由来の食品原料引き合い増

道内企業の中でも異彩を放つのがアミノアップ(札幌市清田区、北館健太郎社長)。シイタケの菌糸体を独自の技術で長期液体培養することでできる「AHC(アミノアップ)」などを生産している。世界でも唯一の存在だ。AHCにはαグルカンなどが含まれ、免疫細胞数や免疫活性の調整、感染防御、腸管免疫を助ける機能が期待できる。

環境対策で、道産の木材やレンガ、太陽光パネルなどを採用したエコハウス棟

「キメラ」の語源は「複合体」。株式会社キメラも、さまざまな技術を複合してひとつの製品を作り上げる意味を社名に込めました。

室蘭から世界へ技術発信 **株式会社 キメラ**

代表取締役 藤井 徹也

北海道室蘭市香川町24番地16
TEL: 0143-55-5293 http://www.kimera.co.jp

未来の空を切り開く
WORLD YAMAUCHI CO., LTD.

会社情報は こちらから

各工場の所在地はこちら

「キメラ」の語源は「複合体」。株式会社キメラも、さまざまな技術を複合してひとつの製品を作り上げる意味を社名に込めました。

1000(戦)通りのシミュレーションから。

戦略倉庫

株式会社内池建設

TEL 0120-106-305

株式会社アミノアップ **AminoUP**

植物が持つ未知の力を探究し 機能性食品を研究開発しています。

各種クレーン・台車などの搬送設備および一般産業機械の設計・製造・販売・メンテナンス

中山機械株式会社

〒061-1112 北海道北広島市共栄54番地13
TEL (011)373-3521(代) FAX (011)373-5009
http://www.nakayamakikai.co.jp/

ガスも、電気も、省エネも。

エネルギーのことなら 北ガスへ

110年以上にわたり、お客様の暮らしを支えてきた北ガスグループが目指すのは、「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」。

北ガスグループ

鍵を握るのは、人材。

中小企業大学校 旭川校

Webで「旭川校のトリセツ」公開中!

中小企業大学校は、国の中小企業施策に基づいて設立された人材育成機関です。

〒078-8555 旭川市緑が丘東3条2丁目2番1号 TEL 0166-65-1200 詳細はホームページで! **中小 旭川**

日本の未来を描く 北のフロンティア

北海道産業特集

中小機構北海道本部

経営管理者養成コース

「初めて研修を受けたときは目の覚める思いだった」と語るのは、エフ産業(北海道東川町)の野呂千晶社長。2017年、当時副社長だった野呂氏は、中小企業基盤整備機構北海道本部が中小企業大学校旭川校で開いた経営管理者養成コースに参加した。約半年間におよぶ受講の中で「経営者としての心構えと覚悟」などを学び、「いかに自分が大変な先々に向かおうとしているかを痛感した」と当時を振り返る。



林業関連の機械を製造するエフ産業。新型機の開発にも余念がない野呂社長(右端)

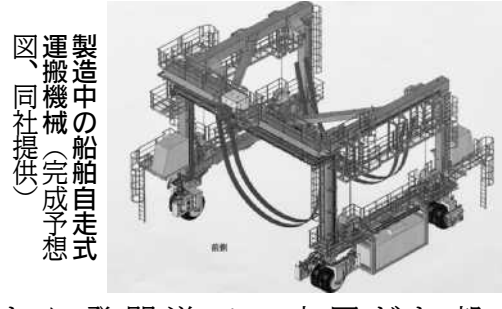
心構え・覚悟学び「全てが変わった」

野呂氏は「これからの研修には参加させる。瞬間的な熱さだけではダメ。時間をかけて自分自身と会社と落とし込み、実践する事が重要」と力を込めた。

中小機構北海道本部による経営管理者養成コースは、質の高い経営を行うための総合的・創造的マネジメント能力の向上を目指す。グループ・プロジェクト・シミュレーションなど、実践的な研修を通じて、経営者としての心構えと覚悟を学ぶ。24年4月、6代目社長に就いた野呂氏は「あの頃は書籍を読んで社長学を学ぼうとしていた。思い立って研修を受けた。全てが変わった。その後、エフ産業からは毎年、従業員が多くのプログラムを用意する中小機構の研修に参加。今年までの7年で合計の参加人数はおおよそ40人。全社員6割を占めるに至っている」。

中山機械

船舶自走式運搬機械を開発・製造 年数件の受注を目指す



製造中の船舶自走式運搬機械(完成予定) 図・同社提供

中山機械(北海道北広島市、高田志郎社長)は、新規事業として船舶自走式運搬機械の開発と製造に乗り出している。国内の港湾で使われている同種の機械はほとんどが海外製。港湾機能の一層の強化が求められる中、需要増加が見込まれる。中山機械では年間数件の受注を目指す。マリンストラドルキャリアと呼ばれる船舶自走式運搬機械は、陸揚げする船舶を岸壁に着岸させ、船の底部分2カ所をキャリアにぶら下がりワイヤに通し、船舶を持ち上げて陸揚げする。そのままキャリアを自走させて船舶のメンテナンス場所まで運ぶ。すでに富山漁業協同組合(同北見市)から受注し、2025年春に稼働する予定だ。

旭イノベックス

ユーザーの声反映 使いやすく

旭イノベックス(札幌市清田区、星野幹宏社長)が2023年に発売した電気タオル・ウォーマー「ホットテラック」をバージョンアップし、ユーザーの声を反映して、使い勝手を高めた。ホットテラックは、タオルを掛ける部分から約42度Cの温熱を発生することで、使用後に濡れたタオルの乾燥時間を短縮するもの。自然乾燥に比べ除菌率は99%



3本のバーが並ぶホットテラックの最新バージョン

電気タオル・ウォーマーに新機能追加

以上もの効果を発揮すると新発売のマルチステージ「HEC-FIT」シリーズでは、3本のバーにタオルを3枚掛けられ、さらに1枚のタオルを上段に掛ければより短時間で乾燥させられる。3時間で電源が切れるオフタイマーを備える上、電源オンから12時間後には自動的にオフになる仕組み。安全性にも配慮している。

ビジネスには志が必要 ビジョン明確に

「ビジネスを興すにも志が必要だ」と説くのは、アミノアップ会長であり北海道二コトブレネス協会の会長を務める小砂憲一氏。北海道の産業構造が大変革を迎えている今だからこそ、「若手起業家は明確なビジョンを示してほしい」と語る。人材育成に向けたこれからを聞いた。

小砂 憲一氏

北海道ニュービジネス協議会会長



「道内学生にやるものづくり製品化&事業化アイデア募集」はHNBCや北海道経済団体連合会、北海道科学技術総合振興センター、札幌商工会議所の4者がスクラムを組んで進めている。熱心な学生が多いと聞き、小砂氏は「みな熱心だ。それに年々、プレゼンテーションの力を身に着けてきている。意欲的な若者が増えてきた。明日を担う若い人には頑張してほしい。有名になる、売上高が増えるなどそれらはあくまでも結果としてついてくるものだから」。

高まる地元中小・新興企業の存在感、新ビジネス創出へ支援体制も盤石

さっぽろ産業振興財団

さっぽろ産業振興財団などが拠点を置く札幌市産業振興センター

起業オフィス 手厚い支援体制 全20室満室

札幌市の外郭団体・さっぽろ産業振興財団(札幌市白石区)が運営する施設の一つが「インキュベーションオフィス Sapporo Business VILLAGE」。インキュベーションマネージャー3人を配し、手厚い支援体制を敷くほか、24時間出入り可能な利便性もあつて全20室が満室(9月末現在)と好評だ。立地は地下鉄東西線東札幌駅から徒歩7分。警備員が常駐し、女性起業家にも安心の環境を整えている。入居企業が「IT系、サービス業、クリエイティブ系など」が中心で、アップ系企業も含め精鋭27社が顔をそろえる。入居条件は①札幌市内の法人(設立後5年以内) ②事業を営んでいない個人 ③これから新規事業を始める同市内の法人 ④同市内の法人で市内に事務所を設ける。など。入居は最長3年。問い合わせ先は011-817-8911。

エゾリンク

北大祭での教育プログラム「カーボンエクト」では地球上の炭素循環を分かりやすく説明

社会課題解決をビジネス化 研究知生かす

エゾリンク(札幌市白石区、安東義乃代表社員)は北海道大学発スタートアップ認定企業として2023年5月に設立したばかり。理学的環境科学の博士5人は、専門人材が不足している分野をターゲットに社会課題解決をビジネス化する。対象分野は幅広い。環境教育では教育プログラムを開発し、地域の活性化では科学的な知見から地域の魅力を再発見する手だてを見つけている。

キメラ

超精密金型部品加工 品質保証を徹底

超精密金型部品加工で圧倒的な技術力を持つキメラ(北海道室蘭市、藤井徹也社長)が、徹底してこだわり続けるのが品質保証だ。高い技術力と品質保証は表裏一体。日本品質保証機構(JQA)による各種品質保証規格を道内でもいち早く取得し、他の追随を許さぬ存在となっている。その代表例が「JIS Q 9100」「ISO9001」の取得。航空宇宙や防衛産業に特化した品質マネジメントシステムの国際規格で、キメラが世界的な航空宇宙関連メーカーであることの証だ。製造現場では試作金型を最速2日、量産金型も最速5日で仕上げ、月1万部品および同50金型を立ち上げる生産能力を持つ。道内では大樹町に本社を置く「インテリス」が民間ロケットの製造を進めている。この基幹部材にもキメラの技術が投入されている。製造現場では24時間連続で自動運転する装置が活躍

ワールド山内

航空宇宙産業向け部品製造へ認証取得

機械加工やステンレス加工で知られるワールド山内(北海道北広島市、山内雄矢社長)は2023年、航空宇宙や防衛産業向けの品質マネジメントシステム認証「JIS Q 9100」「ISO9001」を取得。新事業参入への第一歩を踏み出した。言うまでもなく航空宇宙産業向け部品製造と加工を受注するため、22年には航空機用部品の工場を建設し、準備は万全だ。現在、年内の受注に向けて最後の詰めを急いでいる。山内社長は「価値観が大きく変化し、ニーズも多様化する。私たちがいかんにかにこたえていけるか。どのようにして顧客の満足度と信頼を高められるか。大きな課題ではあるが、それが会社の原動力にもなる」と明言。金属製品の総合百貨店の総代理店として、千歳市に進出する次世代半導体工場関連の受注も視野に入れている。

Sapporo Business VILLAGE

インキュベーションオフィス サッポロビジネスビレッジ

革新的なアイデアや技術を持つ企業を応援！ 札幌市外に本社を置く会社も入居可能。

札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1 TEL: 011-817-8911

DENCOM

Next Generation with Communication Technology

電制コムテック株式会社

〒067-0051 江別市工栄町8番地の13 TEL (011)380-2101 FAX (011)380-2103 https://www.dencom.co.jp

kanamoto

代表取締役社長 金本 哲男 https://www.kanamoto.co.jp

本社 〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19 011-209-1600(大代表) 営業統括本部 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目7番地7 03-5408-5600

地球環境とウェルネスで、サステナブルな未来に挑む。

私たちエアウォーターは、空気や水といった地球の資源を原点に、新しい事業をつくり、新しい価値を生み出し、さまざまな社会課題に挑みながら成長してきました。そして今度は、地球環境とウェルネスという2つの海に飛び込んでいく。目指すは、地球・社会との共生によるサステナブルな未来。勇気とワクワクを胸に、これからもチャレンジを楽しみエアウォーターです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

地球の恵みを、社会の望みに。 エアウォーター

合同会社エゾリンク

～博士開発の環境学習プログラム～ カーボンエクト好評提供中

ワーケーション先での研修に CSRなどのスタディツアーに

https://sites.google.com/view/ezolink/ Ezolink.2022@gmail.com

北日本精機株式会社

「製品・技術情報に関するお問い合わせ」 国際統括販売部門 サッポロプレジジョン株式会社 Phone 011-251-9261 お問合せメールアドレス info@sppc.co.jp

Innovation+ Excellent Co.

ASAHI/NOVEX

www.asahi-inovex.co.jp

協賛企業を募集しています

一学生のビジネスプランを応援しませんかー

キャンパスベンチャーグランプリ北海道事務局 TEL 011-596-9428